

560
31 (日)
毎日新聞
復元された文京区立元町公園のカスケード



昭和初期、ドイツふうの公園として誕生しながら、戦後荒れ果てたままになっていた文京区立元町公園（同区本郷一の一）が三年がかりで復元され、一日オープンする。

同公園は関東大震災後の震災復興公園計画に基づき、災害時には避難場所にもなるよう小学校の隣接地に設置した五十二圃の一つ。当時としては珍しいカスケード（水の流れる階段）も取り入れたドイツ色豊かな小公園（約九百平方メートル）だったが、戦時中は金鼠類の供出で美しいデザインの門扉やサクが失われ、戦後は荒れる一方だった。

他の公園がその後の改修で当時の面影が消えてしまったのに対し、同公園はたまたま手を加えていなかったため、五十七年から約四千万円をかけ復元工事を続けていた。

ドイツふう庭園、昭和初期の面影残し復元